

(1) グループ

- ☆ 学ぶポイントが出来た点、気付いた点
- ・ 末期がん、限られた時間とどこまでどこまでという視念の大切さ。
- ・ がん患者が増えいく、ヘルパーも支援の中心だと感じている。
- ・ 病状をどう判断すればいいか。} 医療との連携、情報共有。
医療の拠点のあり
- ・ 地域にある社会資源の活用 (夜間病院やホム。訪者は緊急時のみ)
介入したくとも時間には限りがある。ほかの中。
- ・ 利用者さんの言葉に傷つくこともフィードバックする機会がほしい。

※ 昔小牧氏は、おあり院長に
ケアの木の名利をいただく
取り組むという。

- ☆ 今後参考にしたいこと (自分もつらくなる)
- ・ ケアの木さん - 細かい情報を聞き取る。情報をもとに検討して
きちんと返してほいたい。

・ ヘルパーさんの小まは気付くが大切。生活を支える。

スタッフが会議に参加するのはありがたいが、
その小まは気がまを責任者を通じて、各事業所に
伝えたい。

在宅連携療養ノート → 基本情報・薬剤師・本人が最後に
過ごした
場所の
記載がある。
→ 連携のルートを活かす。

(2) グループ

✿ 実践発表で思ったこと

- 1対1で入るので不安
入った時に何かあったらどうしよう...
(対応できるか不安)
- ~~単~~ 固定のヘルパーを希望されることが多いが、難しい。
- 人手不足。(精神的にも負担をかかえている)
- 緊急時の連絡体制をきちんと取ることは大切!!
- ヘルパーと他サービスの連絡ノートがあればいいなと思う。
(利用者本人の事がわかるノート) ←

多職種で連携することで、
本人の希望がかなえられること
が出来た。

訪看が入っているケースでは、
使用しているケースが多い

✿ 多職種でメリットが生まれる。

色々な意見が聞ける。

精神的なよゆうが生まれる。

(3) グループ

連携

- 事業所間の協力は今後必要になってくる → 複数の事業所へ支援に入る場合、特に支援方針や、旧来の方針に共有がとれることが大切
※ NPO - 同士も顔がみえる関係でいい
- キャリア期の方は、キャリアとよく連携し、支援をしている → 医師からの情報も多く確保して交換が重要。
- 特に高齢の方、方の対応を複数の事業所が担う場合、同じ対応ができるように意思統一が大切。 → そのためには、みんなのキャリアと連携が必要。
- 事業所内部での教育と確認可能なシステム作り → その点、確認できること。

視点

- 死後ケアの医療と介護の視点の違い
 - 医師はICUを最近、絶対的だとおぼやかした。
 - 命に関わる飲酒やタバコなど、NPO - としては本人が好むにまかしていいと思える(おぼやか) 命に関わることはおぼやかしていい → 夢醒かし
- このあたりが視点

今後に向けて

- 介護士のようにキャリアに参入できるような少人数の職種が、今後増えていけるかはなるかな。 → そのキャリアアップでどうなるの?
- 他の職種も、いろいろな視点、考え方を教えるような姿勢で取り組む。

医療と介護連携

- まだまだ医療との連携はしづらいかな。
- NPO - の利用者さんに対する思いを伝える場があるといい
- 特に若い医師は介護への理解がまだ少ない

(4) グループ

1ヶ月

18H30

5

20H

サ責

まじゅつ

困っている事等

キン/コエ

ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会

○ ヘルパー側 (事業所側の現状)

同じ建物の中に NS. CM. ヘルパーがそろっているのに強い。最近24時間支援はじめたばかりだが忙しさがすごい大変である。(11名いるが、担当ヘルパーは決めていない)

○ 年齢層が低く信頼性が無い。年齢層が高いと、安心感があると思っている？若いヘルパーを好む利用者様もいらっしゃる。(利用者様の自尊心をくすぐる様な声掛けをしていた。)

○ 要支援を受けられる事業所が少なく困っている。

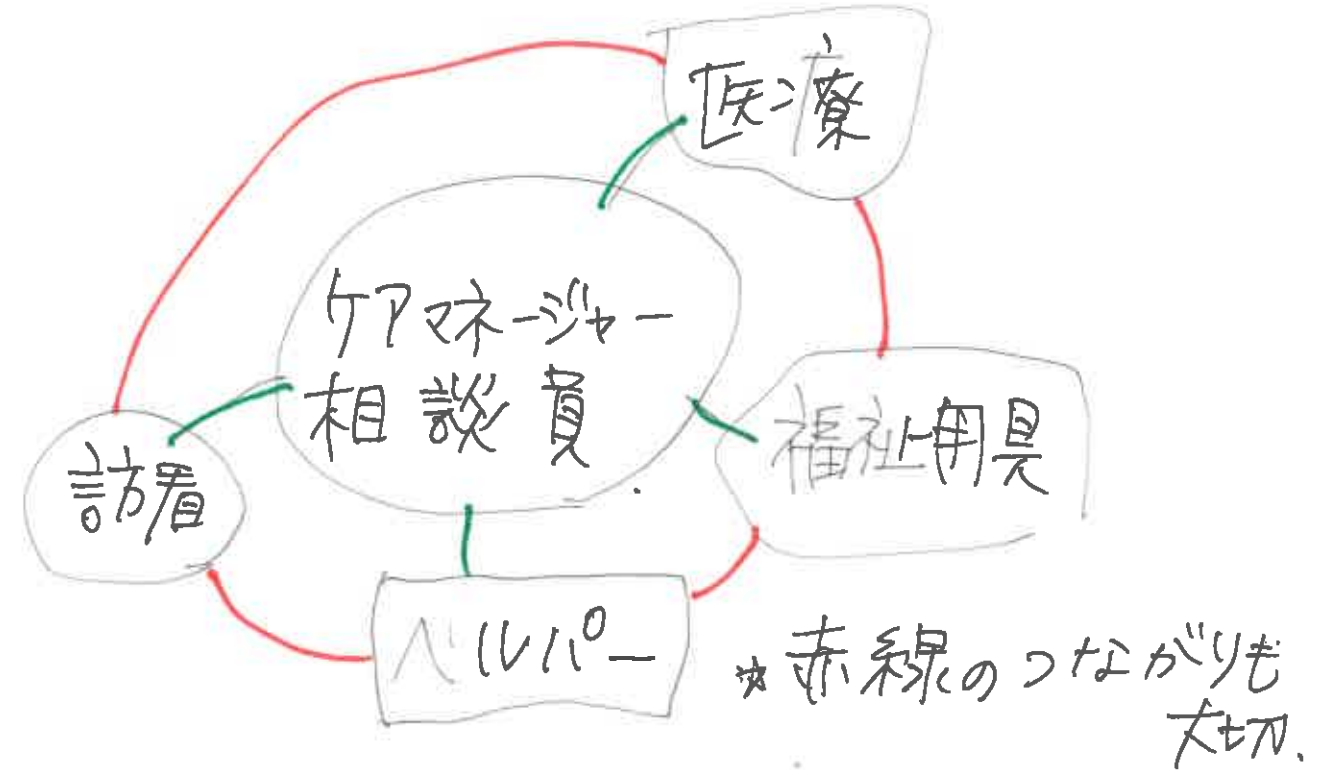
○ 利用者様とヘルパーが合う合わない、好き、好きないという問題は必ずある。(コミュニケーション、料理の好み、掃除の仕方等)

○ 支援を受け入れてくれない利用者様の対応はまず本人の感じのある話しを取りあえず聞き、それでも聞か入れてくれない場合は違う角度からの言いまわしをする
※一方的な支援はしない。

(5) グループ

○実践発表から.

- ・ 家族からの苦情を、ヘルパーとして、どこへ伝えるか 対処するか.
- ・ 訪問ヘルパーと医療との関わり.
- ・ 1人の利用者様には3事業所が関わるケース.
- ・ 利用者からの苦情は、そのまま受け入れる
- ・ ヘルパーからケアマネージャー、相談員等への「情報交換、担当者会議」



- ・ 相談しせぬ関係づくりが大事
- ・ 利用者様のためにという気持ちも大切
- ・ 連絡ノートで情報共有.

(6) グループ

(実践発表より)

ヘルパーさんおし。ケアマネさんにどこまで言っているのかと気にすることがある。

障害者支援の場合。コーディネート役となってくれる方が定まらず。支援者間で悩むほう。

共同住宅の場合。同時に複数の支援者で交わることができる。(同じ視点で)

ソーシャルワーカーとして。その人の暮らし方について把握し。在宅へつなげていけるかと考えている。

(チームケアとして)

ヘルパーとして。本人、家族とのつながりを持ちたい。(連絡ルート、ライン、メール。)

ケアマネとして。情報の伝え方(観察のポイント、連絡の方法)ルール作り。現場のヘルパーさんか不安にならないようにする。

それぞれのサービス事業者の役割を把握し。情報を集める。

事業者間の意思統一の方法。時には事業者間だけでも話し合うと良いのではないかと。

(7) グループ 社会を田

書記 太田

学びたいこと

- ・ 講師の世代とは全く違うと感じた
どうにかかかわりほ長。か 学ぶ機会を
居完者の管理指導にあるか まだおに
下可人へのは。
- ・ サポートは 24時間 24時間 の対応
ヘルパーが求められるのは 施設の仕事
周知の時は。本音。居完とは
多岐にわたる 24時間 24時間 の対応
24時間 24時間 の対応を 思いの
居完への 残り時間を
思いの 24時間 24時間 の対応を
思いの 24時間 24時間 の対応を
思いの 24時間 24時間 の対応を

居完の 施設の仕事のやりかたはあんなに

意義は。施設と居完の仕事は違う
ヘルパー。ヘルパー。ヘルパー。ヘルパー
支援の質。よくなる。支援の質
か 支援。何か長。支援を学ぶにかた。

ヘルパーの仕事のやりかたはあんなに
ヘルパーの仕事のやりかたはあんなに
ヘルパーの仕事のやりかたはあんなに
ヘルパーの仕事のやりかたはあんなに
ヘルパーの仕事のやりかたはあんなに
ヘルパーの仕事のやりかたはあんなに

ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
○○の事例から学ぶ多職種連携研修会
○○の事例から学ぶ多職種連携研修会

ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会

ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会

ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会

ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会

ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会

ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会

ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会

ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会
ヘルパーの事例から学ぶ多職種連携研修会

(8) グループ

1. 多職種でチームを作る時, チームウアを行う時に心かっていること
 - ・ 各事業所に連絡をとりそれぞれの役割になっている(CM)
 - ・ DSの心として, 末期のCMも訪問リハの方と連絡をとりたいから
退院時際に情報をもらってよ尻
 - ・ 訪問看護師もヘルパーとは連絡帳をついている
心として 専門用語をかみくだき, なから他職種に説明している
 - ・ CM 訪問看護の時間やそれぞれの時間に合わせ訪問し情報収集
病院の方にも入院した時に情報を持ってくる, 退院前カノソ
スを行う
 - ・ MSW 入院時にCMの確認し, 連絡をとり情報をもらう
ヘルパーも訪者とのやり取りは直接ない → 直接受け取り機会を
怠やしたい
 - ・ 訪問時に確認し, 戻来後も確認し, 他のヘルパーに伝えていく
(ヘルパー) ^{本人の状態}
 - ・ ノートを活用し, 家族, 他事業所と共有し, お互いに周知徹底する
ようにしている

2. 今後参考にしたいこと

- ・ (DSの心) どちら側から発信 病状も様々な事, 相談員として
がん末期の患者さんについては特になければいけない
- ・ (MSW) 身寄りのない方はどうされているか?

CM ~ 共同住宅の方はヘルパーさんに確認し, 退院時はDSの
心から対応法を確認

・ フィードバックをする TELする, 限られた時間の中で
できるだけの事

(MSW) 本人に対して関わりたいくないという親族がいて
このような場合, どのようにみていったらいいか?

3. どのように対処したらいいか

① がん末期の方にどのように声をかけたらいいか
→ 前向きになるような言葉かけをする (ヘルパー)

(DSの心) 言葉を受け取る, 言葉のうら側に
ものを選ぶ, この話はどこから来たものなのか
をさぐる, 目で見て手でさわって自然に受け
情報の少ない中その人自身を見て考える

・ うらをかきこくことができない → 1人で抱え込ま
ないように, 答えの見えか, 中で不安になるか, どうぞ
ゆびのないうら対処している

・ 全部かかえこまないようにすること

・ 先はい方の対応を見て勉強する, 自分で経験していれば
何か見えてくるものがある

4. まとめ (これからは生かしたい)

・ 専門職として経験を積み, ひとりよかりの感情
に流されないようにしたい

(9) グループ

- ・ 入居時に訪問時の緊急時の連絡。
- ・ 多職種での連携と地域住民の方々と巻き込んで行く。
- ・ 独居認知の増えている
- ・ 顔が見える連携、話し合いの場。
- ・ 研修の場には足を運ぶ。
- ・ 1つの事業所で抱え込んでしまう
→ 共有、共有できる場を設けることが大切。

実践発表

- ・ ヘルパーは生活に密着している
 ことのため。利用者が
 自立者が利用者の情報を得る際に
 ヘルパーの情報は必要である。
- ・ 医療面接等 具体的な対応が重要
 (ヘルパーが迷わないように)。
 一対一の対応であるため。
- ・ 高齢化、2777不足の問題
- ・ 訪問介護事業所の同一の横のつながり。
- ・ 交流、本人の意向がわかる場合
 どう接するか。

連携の促進

- ・ 2777-2777
 関係、各々の連携の促進 (分科)
- ・ 各々の中「こうしたい」の承認
- ・ 立場が異なる場合、各々の中困難が
 わかると、
 そのため、国/市/区等に承認する
 場が必要である。

() グループ

- 多職種間ではんだん。
(医療的な連携) 一番の不安) ヘルパーからの視点、
ヘルパー
- 確認の連絡各組
- 各職の顔合せ () ヲアアネ
- 各職のつながり (数々の話し合い)
- ★ 医療の対応) 医療
- カンファレンスの大事
- 互いの聲が見える。
- 現場からの声上げる。
- 情報がなかなか聞けず、知らない (途中で情報が止まってしまう)
- 各職が本音で話し合いをする (数を多くしていく努力)
- 細かい報告をしてくれる様にする